

2021年度第1四半期決算説明資料

2021年8月2日

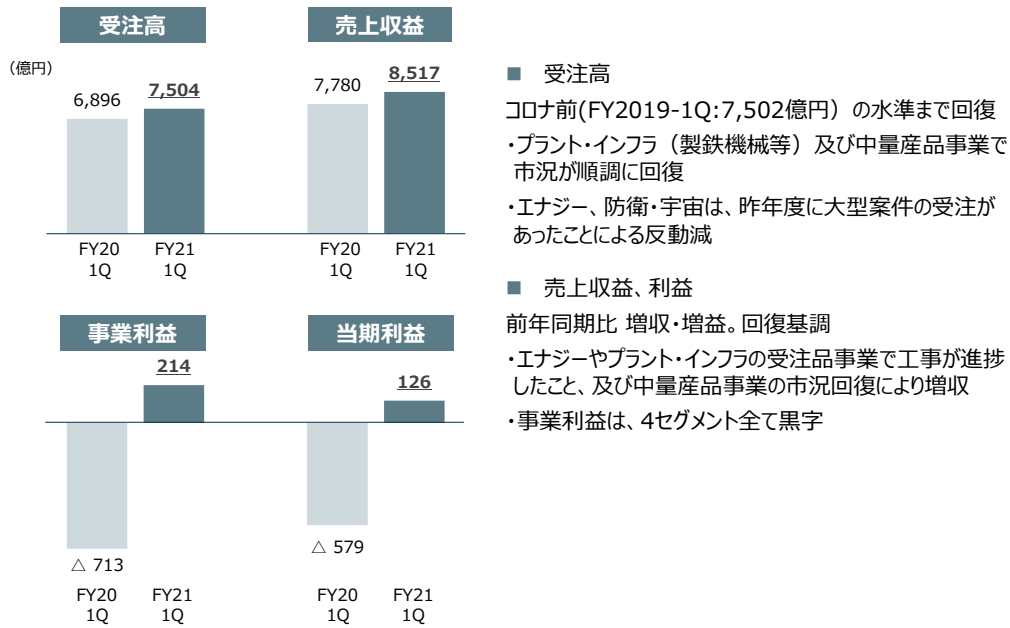
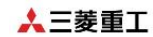
I . 2021年度第1四半期決算実績

- ・ 連結経営成績サマリー 4
- ・ 連結財政状態 6
- ・ キャッシュ・フロー 8
- ・ セグメント情報 9-12
(受注高・受注残高/売上収益/事業利益)
- ・ 事業利益増減分析 13
- ・ コロナ影響と状況 14
- ・ 第1四半期決算の総括 15

II . 2021年度業績見通し 16-18**III . 補足資料 19-25**

I . 2021年度第1四半期決算実績

連結経営成績サマリー



© MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

4

2021年度第1四半期決算実績の概要を説明します。
 スライド4ページと併せ、5ページの数表もご参照ください。

受注高は前年同期から約9%増の7,504億円であり、新型コロナウイルス発生前の一昨年同期と同水準となりました。
 前年同期との対比では、プラント・インフラセグメントと中量産品事業が大きく増加しています。

売上収益および各段階の利益は、前年同期比で増収増益となり、回復傾向が表れています。
 事業利益は、4セグメントとも黒字になりました。

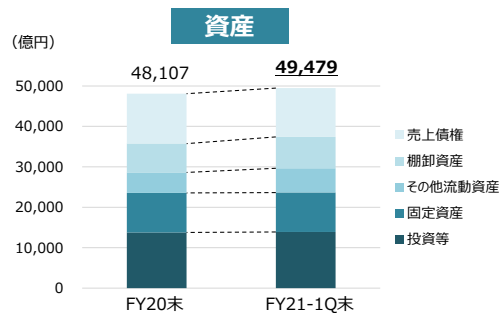
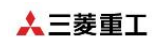
連結経営成績サマリー



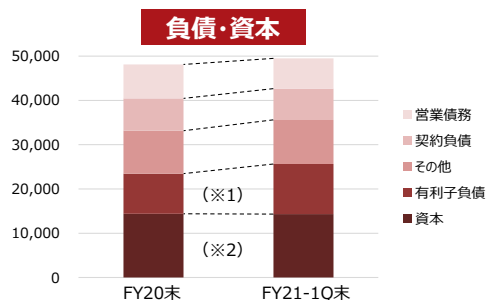
(億円)

	2020年度1Q (利益率)		2021年度1Q (利益率)		増減 (増減率)	
受注高		6,896		7,504	+607	(+8.8%)
売上収益		7,780		8,517	+737	(+9.5%)
事業利益	(△9.2%)	△713	(2.5%)	214	+928	-
親会社の所有者に 帰属する当期利益	(△7.4%)	△579	(1.5%)	126	+705	-
EBITDA	(△4.8%)	△371	(6.3%)	537	+909	-
フリーCF		△3,395		△1,673	+1,722	-

連結財政状態



- 総資産は前年度末から1,372億円増加
- 主な要因は現預金及び運転資金の増加



	FY20末	FY21-1Q末	増減
有利子負債残高 (億円)	9,056	11,298	+2,242
自己資本比率	28.4%	27.4%	△1.0pt
D/ELシオ	0.63	0.79	+0.16

主な内訳 (億円)
 (※1) CP+2,210
 (※2) 当期利益+126、配当△252

© MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

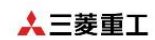
6

6ページと7ページでは、バランスシートの状況について説明します。

運転資金の増加等により総資産が前年度末から増加していますが、これは通常の当社の期中の変動であり、想定通りに推移しています。

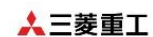
有利子負債等のレベル、各指標の水準についても、年度首の計画範囲内です。

連結財政状態

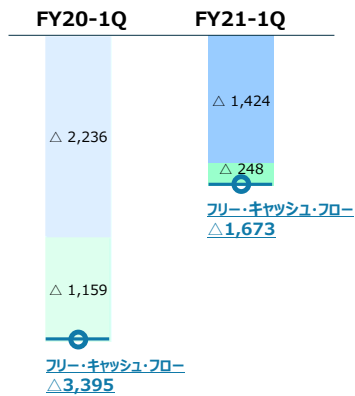


	(億円)		
	FY20末	FY21-1Q末	増減
売上債権（営業債権、契約資産）	12,341	12,077	△264
棚卸資産	7,134	7,746	+612
その他流動資産	5,070	6,007	+937
（現金及び現金同等物）	(2,454)	(2,733)	(+279)
固定資産	9,789	9,752	△37
投資等	13,771	13,895	+124
資産合計	48,107	49,479	+1,372
営業債務	7,637	6,816	△821
契約負債	7,318	7,068	△250
その他	9,701	9,968	+267
有利子負債	9,056	11,298	+2,242
資本	14,393	14,327	△66
（うち親会社の所有者に帰属する持分）	(13,663)	(13,570)	(△93)
負債・資本合計	48,107	49,479	+1,372

キャッシュ・フロー



(億円) ■ 営業CF ■ 投資CF



- フリー・キャッシュ・フロー
通期見通し (±0) に向けて概ね計画通りに推移
- 営業キャッシュ・フロー
・プラント・インフラや物流・冷熱・ドライブシステムの採算が改善
・運転資金等について、前年同期にキャッシュ・フローの悪化要因となったコロナ影響の解消
- 投資キャッシュ・フロー
昨年度はCRJ買収に係る支出があったことに加えて、今年度はSpaceJet投資ミナム化が寄与し、投資額が減少

© MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

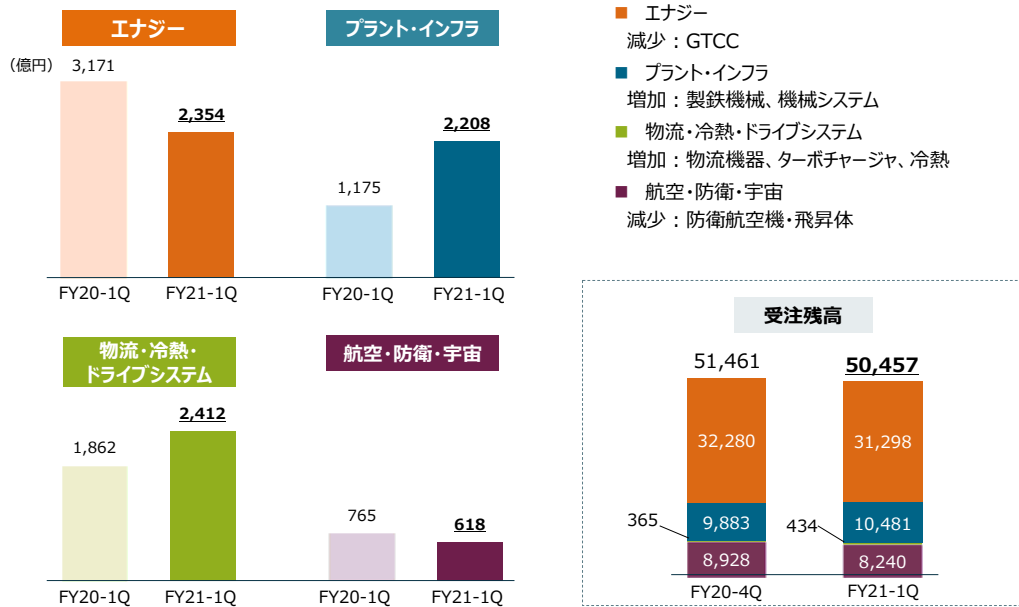
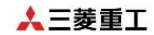
8

営業キャッシュ・フローは、昨年度に引き続き過去に受領していた前受金見合いの支出が大きいためマイナスではあるものの、新型コロナウイルスによる影響も解消されつつあり、前年同期から大きく改善しています。

また、投資キャッシュ・フローは、昨年度CRJ事業買収があった民間航空機関連の支出が大きく減少しました。

フリー・キャッシュ・フローについては、年間見通しに対して想定通りの進捗となっています。

セグメント別 受注高・受注残高



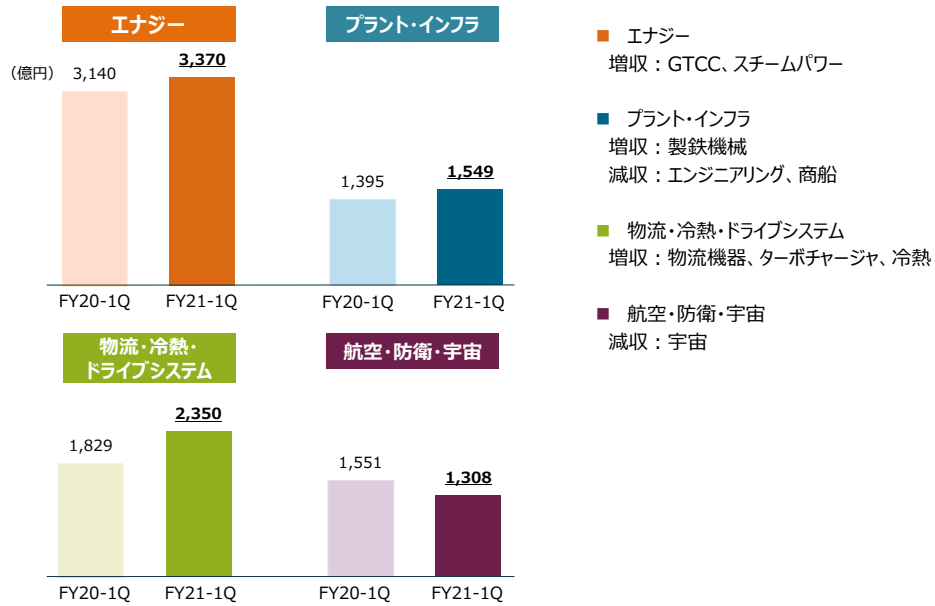
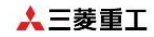
© MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

9

当期の受注高は、プラント・インフラセグメントと物流・冷熱・ドライブシステムセグメントで、前年同期を大きく上回りました。

資料には記載ありませんが、一昨年同期との対比では、プラント・インフラセグメントが増加、エナジーセグメントが若干増加、物流・冷熱・ドライブシステムセグメントが若干減少、防衛・航空・宇宙セグメントは減少となりました。

セグメント別 売上収益



© MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

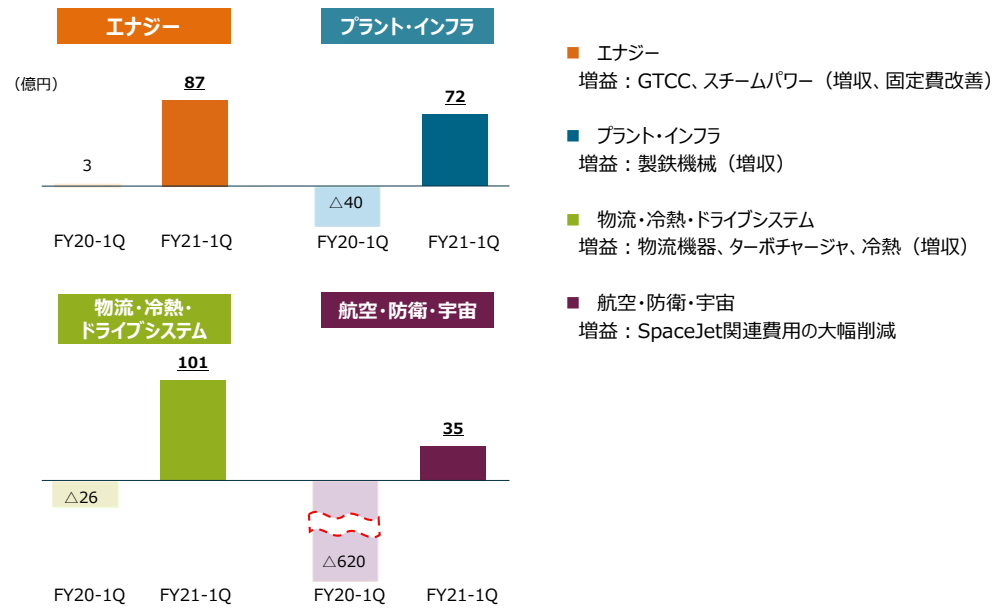
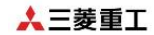
10

売上収益の状況を説明します。

航空・防衛・宇宙セグメントは、当期はロケットの打上げが無かったことから、宇宙で減少しました。

他の各セグメントは、前年同期の新型コロナウイルスの影響による大きな落ち込みからの回復が見られ、増収となりました。

セグメント別 事業利益



© MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

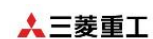
11

事業利益のセグメント別内訳を説明します。

全セグメントで黒字化、増益となっており、年間計画達成に向けて概ね想定通りの滑り出しとなりました。

防衛・航空・宇宙セグメントは特に大きく改善していますが、これは昨年秋にSpaceJetの立ち止まりを決定したことが寄与しています。

2021年度第1四半期決算実績 セグメント別内訳



(億円)

	受注高			売上収益			事業利益		
	FY20 1Q	FY21 1Q	増減	FY20 1Q	FY21 1Q	増減	FY20 1Q	FY21 1Q	増減
エンジン	3,171	2,354	△817	3,140	3,370	+230	3	87	+84
プラント・インフラ	1,175	2,208	+1,033	1,395	1,549	+154	△40	72	+112
物流・冷熱・ ドライブシステム	1,862	2,412	+550	1,829	2,350	+521	△26	101	+127
航空・防衛・宇宙	765	618	△147	1,551	1,308	△243	△620	35	+655
その他	△78	△89	△11	△137	△61	+76	△29	△82	△53
合計	6,896	7,504	+608	7,780	8,517	+737	△713	214	+927

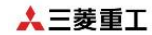
© MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

12

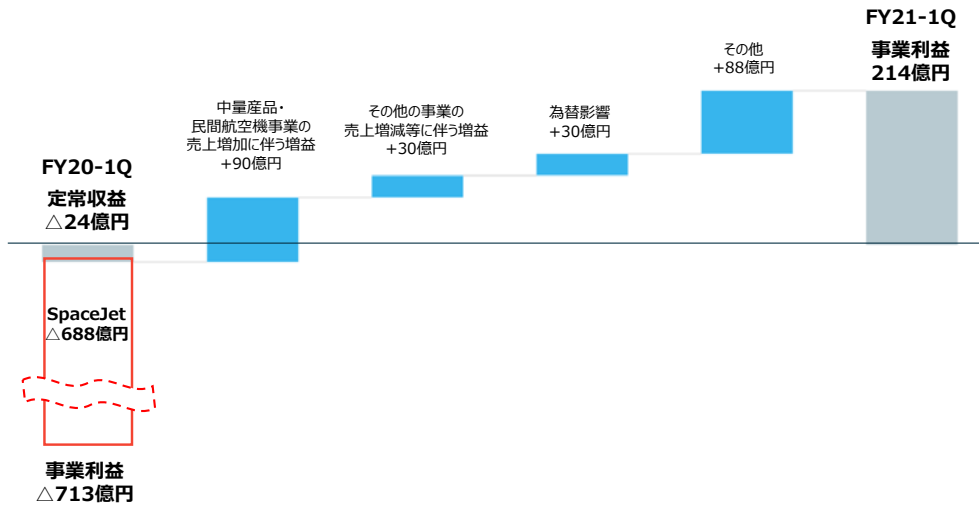
本スライドは、セグメント別の受注・売上・利益をまとめたものです。

なお、スライド20ページ以降に各セグメントの補足資料を掲載していますので、併せてご参照ください。

事業利益増減分析



- 昨年度、新型コロナウイルスの影響を大きく受けた中量産品・民間航空機事業については、主に中量産品事業の市況が回復し採算改善。



© MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

13

本スライドでは、前年同期対比での事業利益の増減要因について説明します。

棒グラフの一番左端、2020年度第1四半期の事業利益は713億円の損失であり、SpaceJet関連損失を除外しても24億円の損失でした。

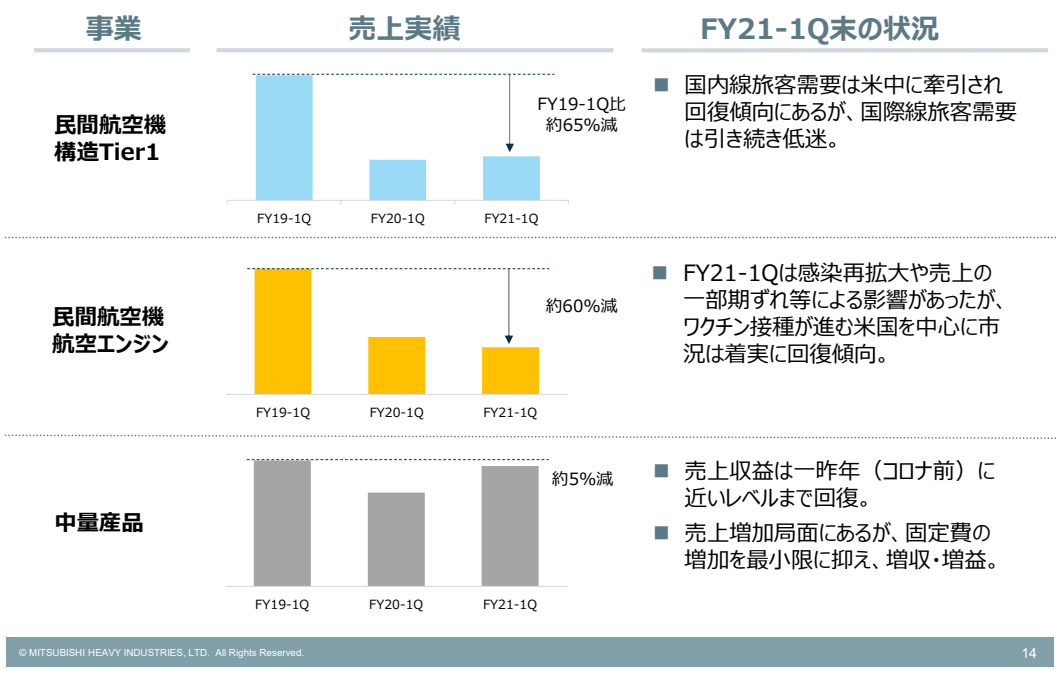
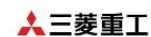
2021年度第1四半期の事業利益は、右端の棒グラフ214億円となりましたが、その差異の要因を青色の棒グラフで示しています。

新型コロナウイルスによる影響からの回復の効果は、左の二つの青色の棒グラフ +90億円と +30億円に主として表れていると考えています。

中量産品・民間航空機関連事業における新型コロナウイルスの影響については、次ページで補足します。

為替レートの影響は前年同期と比較して、ドル、ユーロとも円安傾向であり、特にユーロは売上計上平均レートが10%以上円安となったことが影響しています。その他は、工事採算の改善、固定費削減効果などによるものです。

コロナ影響と状況



本スライドは、新型コロナウイルスによる影響が直接的に大きく表れている、中量産品事業と民間航空機関連事業の状況をまとめたものです。

民間航空機のTier1（Boeing向けを中心とした機体の供給事業）の売上収益は、新型コロナウイルス感染拡大前から大きく落ち込んだ前年同期とほぼ同水準となりました。

昨年度は第2四半期以降にやや回復傾向が見られた時期もありましたが、第4四半期以降は再び低水準となりました。欧米、中国を中心に域内航空の需要は戻りつつあるものの、国際線の需要は依然として低調であるため、当社が生産するワイドボディ機の需要は戻っていません。

航空エンジンについては、第1四半期は一部工事の売上計上期ずれもあり、想定より低い売上となりましたが、第2四半期以降は回復してくるものと見ています。

中量産品については、自動車関連を除けば一昨年度同期、新型コロナウイルス感染拡大前と同等以上の売上水準に戻りました。また、昨年度中に進めた固定費削減の効果もあり、利益では一昨年度同期を上回っています。

- 受注、売上収益、事業利益
 - ・市況の回復、停滞していた商談・工事の再開・進捗等により、受注、売上収益、事業利益が改善。
 - ・特に、プラント・インフラと物流・冷熱・ドライブシステムは顕著な増収・増益傾向。
 - ・増収基調の事業においても、固定費削減・抑制は継続。

- キャッシュ・フロー
 - ・営業キャッシュ・フローの改善、投資の抑制により、フリー・キャッシュ・フローはFY19-1Q並みの水準へ回復。
(FY19-1Q : △1,694億円、 FY21-1Q : △1,673億円)
 - ・概ね計画通りの推移。

- バランスシート
 - ・1Q末時点では運転資金が増加しているが、通常の年度内の変動。
 - ・引き続き、総資産の圧縮、アセットの入替えを図る。

今期の財務実績は概ね計画通りだったと考えています。

しかしながら、国内はもとより、アジア各国をはじめとした、全世界的な新型コロナウイルス変異株の感染再拡大が生じており、世界経済の先行きを楽観視することはできません。短期的なマーケットの変化を注視しつつ、年度計画の達成に向けて対策を講じていきます。

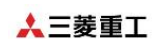
スライド16ページから18ページでは2021年度の業績見通しを示していますが、5月時点に公表した数値から変更はありません。

以上で、2021年度第1四半期決算の説明を終了します。

Ⅱ. 2021年度業績見通し

本資料に記載している業績見通し等の将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したもので、リスクや不確実性を含んでおり、また、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。
従いまして、この業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。
実際の業績は、様々な重要な要素により、この業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おください。
実際の業績に影響を与える要素には、当社グループの事業領域をとりまく経済情勢、対ドルをはじめとする円の為替レート、日本の株式相場などが含まれます。

2021年度業績見通し サマリー



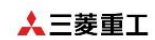
前回公表値 (2021年5月10日) から変更なし

(億円)

	2020年度実績 (利益率)		2021年度見通し (利益率)		増減 (増減率)	
受注高	33,363		36,000		+2,637	(+7.9%)
売上収益	36,999		37,500		+501	(+1.4%)
事業利益	(1.5%)	540	(4.0%)	1,500	+960	(+177.4%)
親会社の所有者に 帰属する当期利益	(1.1%)	406	(2.4%)	900	+494	(+121.5%)
ROE	3.1%		6.5%		+3.4pt	-
EBITDA	(5.2%)	1,933	(7.5%)	2,800	+867	(+44.8%)
フリーCF		△2,771		0	+2,771	-
配当		75円 (中間0円/期末75円)		90円 (中間45円/期末45円)		

【前提為替レート】 【未確定外貨】
 1ドル = 110円 30億ドル
 1ユーロ = 130円 3億ユーロ

2021年度業績見通し セグメント別内訳



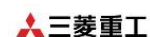
前回公表値 (2021年5月10日) から変更なし

(億円)

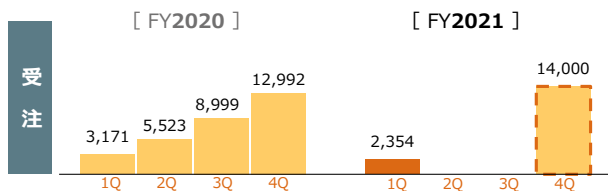
	受注高			売上収益			事業利益		
	FY20 実績	FY21 見通し	増減	FY20 実績	FY21 見通し	増減	FY20 実績	FY21 見通し	増減
エナジー	12,992	14,000	+1,008	15,460	16,000	+540	1,276	1,000	△276
プラント・インフラ	5,752	7,000	+1,248	6,372	6,500	+128	△102	200	+302
物流・冷熱・ ドライブシステム	8,680	9,500	+820	8,603	9,500	+897	156	300	+144
航空・防衛・宇宙	6,262	6,000	△262	7,021	6,000	△1,021	△948	200	+1,148
その他	△324	△500	△176	△457	△500	△43	158	△200	△358
合計	33,363	36,000	+2,637	36,999	37,500	+501	540	1,500	+960

Ⅲ. 補足資料

補足資料 第1四半期決算実績〈エナジー〉

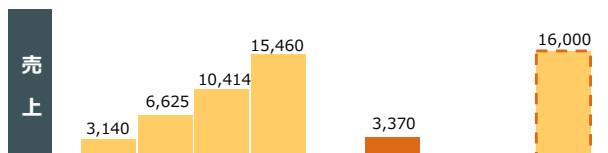


(億円・各期の数値は累計)



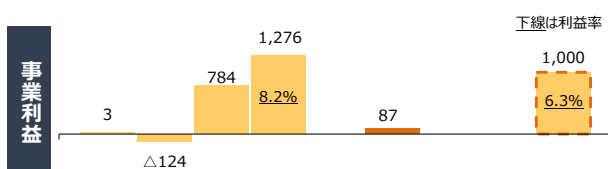
(主な事業の受注)

	FY20-1Q	FY21-1Q
GTCC	1,715	897
スチームパワー	408	760
原子力	381	326



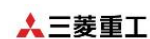
(主な事業の売上)

	FY20-1Q	FY21-1Q
GTCC	986	1,216
スチームパワー	1,240	1,320
原子力	408	369

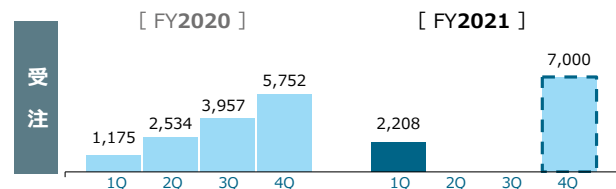


- ・ 火力事業の採算改善により、セグメント全体で前年同期比 増収・増益。
- ・ 市況は回復基調なるも、一部売上期ずれのあった航空エンジンの減収影響や、新分野への投資・活動費の増加を吸収。

補足資料 第1四半期決算実績〈プラント・インフラ〉

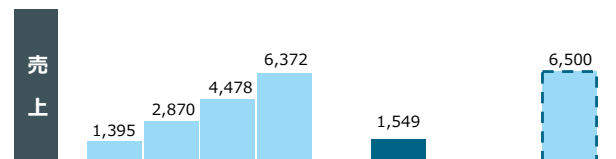


(億円・各期の数値は累計)



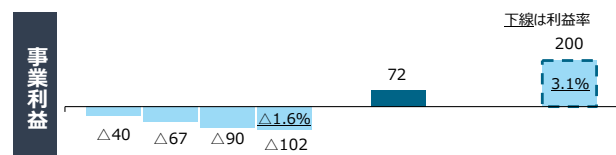
(主な事業の受注)

	FY20-1Q	FY21-1Q
エンジニアリング	293	181
製鉄機械	223	1,032
機械システム	251	366



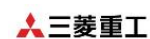
(主な事業の売上)

	FY20-1Q	FY21-1Q
エンジニアリング	377	303
製鉄機械	416	604
機械システム	278	284

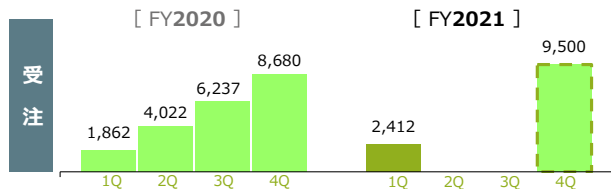


- ・製鉄機械は、コロナで停滞していた商談の活発化や、工事の再開・進捗により、受注・売上とも大きく改善。
- ・エンジニアリング、機械システムにおいても順調に工事が進捗し、セグメント全体で前年同期比 増収・増益。

補足資料 第1四半期決算実績〈物流・冷熱・ドライブシステム〉

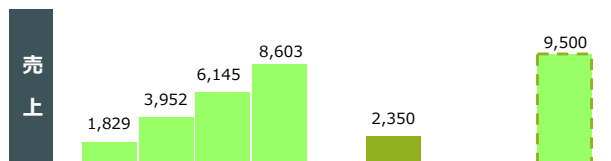


(億円・各期の数値は累計)



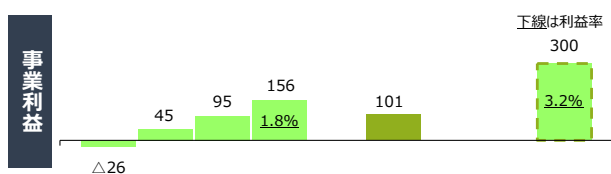
(主な事業の受注)

	FY20-1Q	FY21-1Q
物流機器	902	1,080
エンジン・ターボチャージャ	427	629
冷熱・カーエアコン	546	721



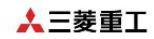
(主な事業の売上)

	FY20-1Q	FY21-1Q
物流機器	902	1,080
エンジン・ターボチャージャ	430	604
冷熱・カーエアコン	508	683

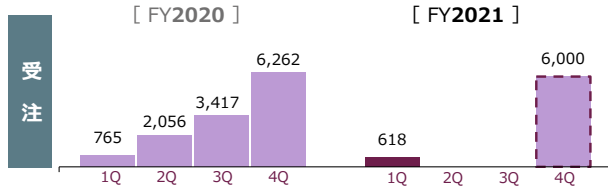


• コロナ影響からの回復が鮮明。売上増加局面にあるが、固定費の増加を最小限に抑え、前年同期比 増収・増益（売上高SG&A比率は改善）。

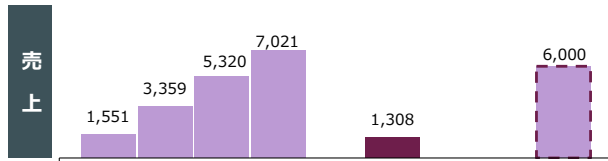
補足資料 第1四半期決算実績〈航空・防衛・宇宙〉



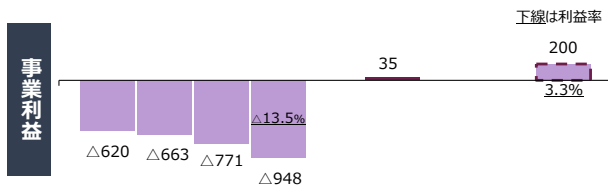
(億円・各期の数値は累計)



	FY20-1Q	FY21-1Q
防衛・宇宙	525	299
民間機	239	319



	FY20-1Q	FY21-1Q
防衛・宇宙	1,247	992
民間機	303	315



- ・ 防衛・宇宙は前年同期の売上規模が大きかった（H-IIBロケットの打上げあり）反動で減収。
- ・ 民間航空機構造Tier1は、Boeing向けの主要機種の出荷機数減など、依然としてコロナ影響が大きい。
- ・ セグメント全体では、SpaceJet関連費用の大幅削減やCRJ事業の米国国内線需要回復に伴う整備需要の増加も寄与し、前年同期比増益。

ガスタービン 受注台数・契約残台数

大型	FY20 1Q	FY20 通期	FY21 1Q
米州	-	4	-
アジア	2	4	1
EMEA	-	3	-
その他	-	2	-
合計	2	13	1
契約残台数	45	48	46

中小型	FY20 1Q	FY20 通期	FY21 1Q
米州	-	6	-
アジア	-	-	-
EMEA	-	-	-
その他	-	-	-
合計	0	6	0
契約残台数	15	5	5

民間航空機 出荷機数

777	1Q	2Q	3Q	4Q	合計
FY2020	3	10	7	4	24
FY2021	5	/	/	/	/

777X	1Q	2Q	3Q	4Q	合計
FY2020	3	3	0	1	7
FY2021	2	/	/	/	/

787	1Q	2Q	3Q	4Q	合計
FY2020	18	32	20	14	84
FY2021	14	/	/	/	/

研究開発費、減価償却費、設備投資

	FY20-1Q	FY21-1Q	(単位：億円) FY21見通し
研究開発費	283	227	1,300
減価償却費	342	323	1,300
設備投資	284	208	1,200

販売費及び一般管理費

	FY20-1Q	FY21-1Q	(単位：億円)
販管費	1,304	1,365	

為替レート（売上計上平均レート）

	FY20-1Q	FY21-1Q
USDル（円/USDル）	107.4	108.7
ユーロ（円/ユーロ）	117.5	132.1

MOVE THE WORLD FORWARD

mitsubishi
heavy
industries
group